

4. サービス関連

学生の意見

- ペーパーレス化について以下の意見が寄せられました。
 - 大学院授業科目としての認定願（様式 8 号）をペーパーレス化してほしい（同様意見 5 件）。
 - 勤務報告書をペーパーレス化してほしい（同様意見 2 件）。
 - 海外大学への出願のために成績証明書が必要であり、現状だとスキャンをしなければいけない。

現状分析

近年の情報化社会の発展に伴い社会全体におけるペーパーレス化が拡大しています。これまでの学勢調査では本学における様々な書類に対してペーパーレス化を推し進める提言を行なってきました。その結果として履修申告や講義室予約など申請業務の WEB 化が実現されました。今回の提言では新たに 4 つのペーパーレス化（様式 8 号・成績証明書・卒業証書・勤務報告書）を提言します。

まず様式 8 号について説明します。様式 8 号とは、学部時代に受講した大学院科目の単位認定を申請する書類（図 4-1.1）のことです。様式 8 号では申請科目毎に書類を作成するため、一人当たり複数枚必要となることが予想されます。記入・署名の手間を考慮すると手続きの簡略化による効果は大きいと考えられます。

様式様式第 8 号
Course Administration Form No.8

大学院 授業科目としての認定願
A request to approve as a Graduate School Course

平成 年 月 日
Date(yy-mm-dd)

学院長 殿
To the Dean,

入学年度： 年度
Year of Admission

学 院：
School of

コース：
Graduate major in

学 籍 番 号：
Student ID No.
ふりがな

氏 名：
Name

田
Seal

私は本学 _____ 学院(学部) _____ 系(学科)在学中に「東京工業大学学士課程の学生が大学院授業科目を履修する場合の取扱い」に基づき、大学院授業科目を受講し試験に合格しましたので、大学院授業科目の単位として認めていただきたく申させていただきます。
I hereby request for a permission to approve below Course as a Graduate School Course.

記

科目コード Course Number	授業科目名 Course Title	単位 Number of Credit	担当教員 Instructor	受講年度・学期・クォーター Course attended Academic Year/Semester/Quarter	
				年度 西暦	学期・クォーター [10・20・30・40]

【提出時期：学習申告期間中に提出】
Submit within the Course Registration Period.

図 4-1.1 様式 8 号(教務 WEB システムより)

4. サービス関連

続いて、成績証明書・卒業証書について説明します。海外の大学では証書を電子化する流れがあります。例えば、マサチューセッツ工科大学は2017年からBlockcertsというブロックチェーン技術を活用した国際規格のシステムを利用して卒業証書を電子化しました³¹。海外留学に向けた出願では電子化された成績証明書を提出する機会が多いため、本学学生は紙面の成績証明書をスキャンして電子化して提出しなければなりません。スキャンされた画像データは読み取りの手間が発生するため、出願先にも手間をかけさせることとなります。成績証明書のデジタル証明書化を行えば原本を送付する必要もなくなり手続きとしても大幅な効率化が見込まれます。

続いて、勤務報告書について説明します。勤務報告書とは学生アシスタントとして従事した事を報告するための書類です。この書類は月ごとに作成を行うため提出頻度が高くなります。経理的な書類であるため保管にかかるコストが発生します。

これらのペーパーレス化に伴う問題点は署名をどのように行うかという点です。上に述べた書類の多くは署名を必要とします。これらを解決する方法として手続きの簡略化とデジタル署名が考えられます。手続きの簡略化は書類の役割を考え慎重に行わなければなりません。様式8号について言えば署名による承認を必要としないため、WEB上で完結することが可能です。デジタル署名は機器を購入すれば電子的にサインすることが可能であり、印刷・スキャンの手間が削減できます。近年のペーパーレス化の流れを受け様々な専用機器が流通しており、これらを導入することは困難ではありません。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 様式8号の手続きをWEB上で完結することに対して問題点は考えられますか。

A1. 様式8号の電子化については前向きに検討させていただきます。

Q2. 成績証明書のペーパーレス化について問題点は考えられますか。

A2. どのような案件で電子的な成績証明書が必要となるのか把握出来ていないので、具体的にイメージすることが出来ません。

Q3. 特殊な案件ではありますが、海外大学への出願の際に必要になります。この時、原本も送付する必要がなくなり多くの手間が削減できます。このような場合ではいかがでしょうか。

A3. 検討してみます。

また、人事課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 勤務報告書の手続きをWEB上で完結することに対して問題点は考えられますか。

A1. 2019年4月からの働き方改革を受けて教職員の勤務状況をしっかり把握しなければならなくなったこともあり、勤務報告の手続きをWEB上で行う手続きの検討を始めています。現在、他大学を視察し、他大学の動向も踏まえ検討している最中です。しかしながら、まずは教職員の方を先に導入することを考えていますので学生の方の導入は遅れることが予想されます。

提言

様式8号・成績証明書・卒業証書・勤務報告書の4つの書類についてペーパーレス化を提言します。

- ・ 様式8号の手続きを簡略化し、WEB上で作業を完結させる。
- ・ 成績証明書をデジタル証明書化しWEB上から入手できるようにする。
- ・ デジタル署名を行えるように機材を導入し、勤務報告書などの書類をペーパーレス化する。

³¹ MIT News 「Digital Diploma debuts at MIT」 :

<http://news.mit.edu/2017/mit-debuts-secure-digital-diploma-using-bitcoin-blockchain-technology-1017>

学生の意見

- ・ OCW-i にある未提出課題の非表示機能をつけてほしい（同様意見 4 件）。
- ・ OCW-i にある講義資料の名前が全部「添付資料」になっており紛らわしい（同様意見 8 件）。

現状分析

学勢調査 2018 における OCW-i に関する調査項目として、「東工大ポータル（メール、教務 Web、OCW-i、SSL-VPN、学修ポートフォリオなど）を良くするために意見があればご記入ください。（2000 字以内）」の自由記述（以下、東工大ポータル自由記述）について分析します。

まず、東工大ポータル自由記述の回答における単語の出現回数のグラフ（図 4-2.1）、および共起ネットワーク（図 4-2.2）を示します。

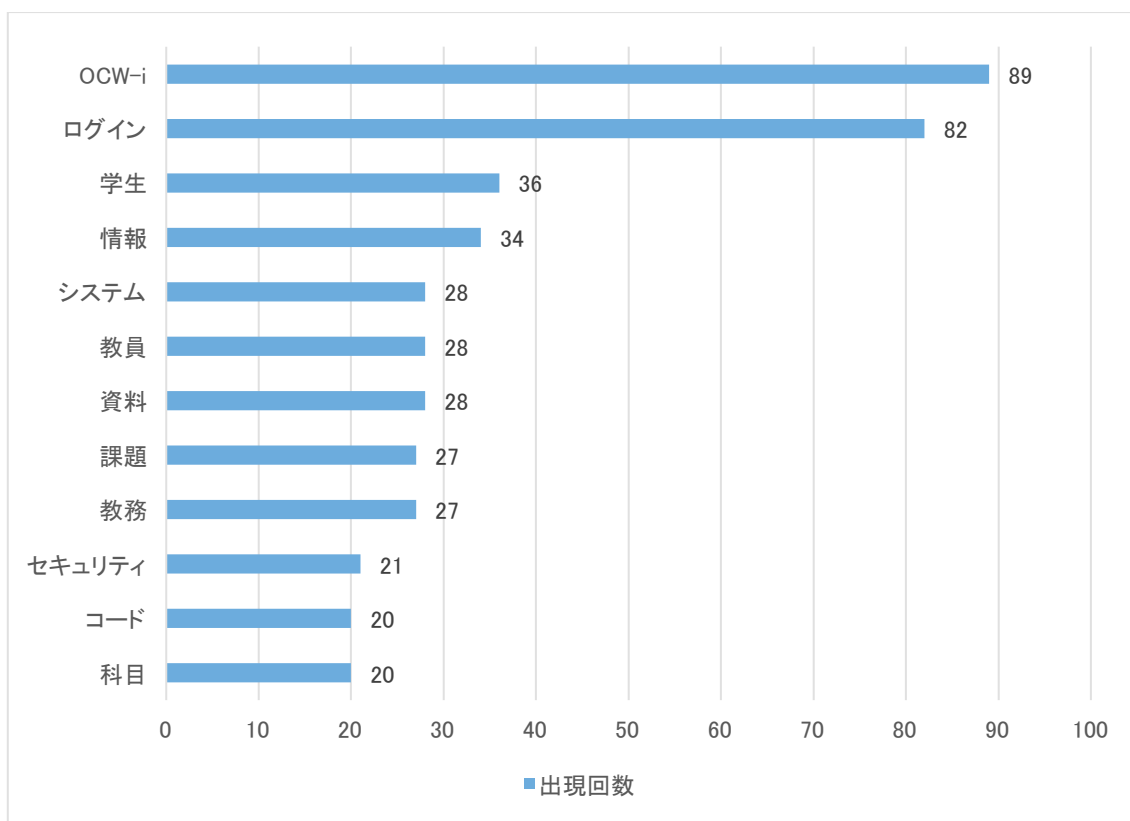


図 4-2.1 東工大ポータル改善の自由記述中に出現する単語の出現回数（20 回以上）

学生の意見

キャンパス無線 LAN の環境への意見として次の意見が寄せられました。

- ログイン画面にすぐに繋がらない（同様意見 28 件）。
 - ・ WEB にアクセスした際にすぐにはログイン画面には繋がらず、試行錯誤をしているうちに移行する。
 - ・ アドレスが「https」のものでは繋がらないが「http」のものは繋がる。
- 接続がすぐに切れる（同様意見 16 件）。
 - ・ 移動するとログアウトする。
 - ・ パソコンのログオフ時にログアウトする。

キャンパス無線 LAN が繋がりにくい場所として次の場所が指摘されました。

- 本館中庭講義室 (H102・H103・H104)（同様意見 24 件）。
- 第 2 食堂（同様意見 10 件）。

現状分析

本学には TokyoTech と呼ばれるキャンパス無線 LAN が整備されています。このキャンパス無線 LAN は学生や教職員のアカウントでログインすれば無料で利用できるサービスです。本提言では学生が不便であると感じている、ログイン・セッションアウト・電波領域の改善について分析します。

まずログインについて説明します。キャンパス無線 LAN を利用する度にアカウントにログインする必要がありますが、そのログイン画面に「繋がりにくい」という声があがりました。原因としてサイトが重い可能性・移行の条件が問題である可能性が考えられます。サイトに関して言えばログイン画面は利用条件とログインのみ行えばよいことから画像をなくすなど読み込みデータ量を削減することが可能です。次に移行の条件に関して、「繋がりにくい」という意見の中には「WEB にアクセスした際にすぐにはログイン画面には繋がらず、試行錯誤をしているうちに移行する」との声や、「アドレスが『https』のものでは繋がらないが『http』のものは繋がる」との声がありました。詳細な原因は不明ですが移行の条件を見直すことによって改善する可能性があります。

次にセッションアウトについて説明します。セッションアウトはログインしてから長時間経つ・パソコンの無線 LAN 機能がオフになる等の操作によって自動でログアウトされる事を指します。今回、「接続がすぐに切れる」との意見がありましたがこれはセッションアウトによる現象であると考えられます。この問題は上で述べたログインの問題と直結する問題でもあります。この問題について様々なケースごとに原因を考えます。まず時間が経過するとセッションアウトする件はセッションタイムアウトの設定時間を延ばせば良くなります。具体的には講義時間の 90 分より長い時間に設定すれば良いと考えられます。次に「移動するとログアウトする」との意見があがりましたが、これは無線 LAN のルーターを切り替えた時にセッションアウトしたことが原因であると考えられます。この場合 2 つのルーターの電波領域に重なる場合、頻繁にセッションアウトする可能性があるため見直しが必要です。「パソコンのログオフ時にログアウトする」との声があがりましたが、これはパソコンの無線 LAN 機能がオフになった際のセッションアウトであると考えられます。この現象は講義中に良く起こると考えられます。講義を受講している間パソコンを操作しないため自動ログオフが発生し無線 LAN からセッションアウトされるためです。受講する際に支障を来すため改善が求められます。

次に電波領域の改善について説明します。キャンパス無線 LAN は多数のルーターから発せられる電波領域でキャンパスを覆うことによって広く利用できるようになっています。しかしながらルーターの個数には限りがあるためキャンパス全域を覆うことができません。そこで非常に多く不満の声が上がった本館の地階を重点的に拡充すれば良いと考えられます。具体的に言えば、H102・H103・H104・第 2 食堂です。H102・H103・H104 は本館の中庭部分にある講義室であり、寄せられた意見の中でも群を抜いて多く挙げられました。第 2 食堂は食事する場所であるがフリースペースとして活用する学生も多くなっています。そのため、無線 LAN 環境は重要となります。

4. サービス関連

これらの現状を踏まえ、情報基盤課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

- Q1. すぐにはログイン画面には繋がらず、試行錯誤をしているうちに移行するそうですが何か原因は考えられますか。
- A1. 2018年の無線は全体的に調子が良くはありませんでした。まずログイン画面に移行の条件を設定する際、「http」と「https」のポートを選択して設定を行いますが、昔は両方とも選択していました。しかし、2018年はOSの不具合により重くなってしまったので「https」の転送を止めました。そのため「http」に繋がるとログイン画面に移行します。ホームページ等で掲示³²を行っていますが認知は不十分なようです。次のメジャーアップデートで解決されると聞いています。
- Q2. セッションタイムアウトの時間はどのくらいありますか。
- A2. セッションタイムアウトの時間は4時間あります。よってセッションタイムアウトが講義に支障をきたすことはほとんどないと考えられます。
- Q3. 移動等でキャンパス無線LANのアカウントから頻繁にログアウトされることについて改善することはできないでしょうか。
- A3. 無線LANのアカウントからログアウトされる要因はアクセスポイントの切り替え等が考えられます。WEB認証しなくても裏で自動再ログインをする機能もあり考慮しています。懸念点として、現在の認証システムは情報が漏れないように何重にもセキュリティーをかけているため難しくなっています。認証システムを変更すると安全性を低下させてしまう恐れがあります。また学生が利用規約や注意勧告を見なくなってしまうのも問題点となります。
- Q4. ログイン画面を軽量化できないでしょうか。
- A4. 近年ネットワーク上の事件が大きな課題となっています。学生を巻き込まないためにも少し厳しめのルールを設定していますが、ルールを守らない学生がいるため利用規約・注意勧告を表示させておく必要があります。また、ネットワークの利用の倫理面に気づき日頃から意識を持って利用して頂くためにも利用規約・注意勧告は目につくようにするのが教育的であると考えています。
- Q5. 本館中庭の講義室や第2食堂の無線LAN改善に関する意見が多くなっていたことに関して原因は考えられますか。
- A5. 付近のアクセスポイントを調べて見ましたが特に混雑した様子は見られませんでした。しかしながら、実験装置や電子レンジなどの電磁波によって障害となっている場合があります。

提言

以上を踏まえて次のように提言します。

- ・ 自動ログインを導入し、定期的に利用規約・注意勧告のページを表示するようにする。
- ・ 電磁波を出す装置を調べ、電磁波を遮断するためのシールドを設置する。

³²東京工業大学 学術国際情報センター「TokyoTechの障害及びメンテナンスについて」：
<http://www.noc.titech.ac.jp/info/trouble/20181017.html>

学生の意見

履修申告制度の改善について次の意見が寄せられました。

- 2Q・4Qの履修申告は2Q・4Qの初めの時期に行うようにしてほしい(同様意見 85 件)。
 - 先の予定が分からない(同様意見 7 件)。
 - 授業を受けてから決めたい(同様意見 11 件)。
 - 追加申告や履修取り消しの手間がかかる(同様意見 18 件)。

現状分析

学勢調査 2018 において、履修申告制度の満足度は図 4-4.1 のようになりました。回答者の約 75%が履修申告制度に満足している一方で 25%が不満足に感じています。自由記述による回答には 2Q・4Qの履修申告制度に関する意見が多く寄せられました。特に多かった意見として「2Q・4Qの履修申告は2Q・4Qの初めの時期に行うようにしてほしい」との声がありました。学勢調査 2016 においても同様の意見が多数報告されました。学勢調査 2016 のキャンパスミーティングでは教務課から「1Q・3Qの履修申告と同様の操作が2Q・4Qの履修申告においても可能である」との回答が得られました。そのため前回の調査から今回の調査まで履修申告制度の大幅な変更は行われませんでした。さらに、1Q・3Qの履修申告と2Q・4Qの履修申告を分けて行う場合、手間が増えたと感じる学生も存在する可能性があり、約 75%の学生が満足している履修申告制度の変更には慎重な対応が求められます。そのため今回の調査ではより詳細な分析をもとに提言を行います。

「2Q・4Qの履修申告は2Q・4Qの初めの時期に行うようにしてほしい」との意見には「先の予定が分からない」、「授業を受けてから決めたい」、「追加申告や履修取り消しの手間がかかる」との理由が併せて記されていました。まず「先の予定が分からない」、「授業を受けてから決めたい」については追加申告・履修取り消しによって解決できるように思えます。次に「追加申告や履修取り消しの手間がかかる」に関しては、履修申告を分けても手間は増えることを考慮すれば、単純に1Q・3Qの履修申告に比べて追加申告・履修取り消しの操作が複雑であることが根本的な問題であると考えられます。そのため1Q・3Qの履修申告と同様の操作が2Q・4Qの履修申告においても可能なのであれば同様のユーザーインターフェースで操作することが可能であり、そのように変更すればこの問題は解消されと考えられます。1Q・3Qの履修申告の初めに2Q・4Qの履修申告をまとめて行い、2Q・4Qの履修申告については「更新」との形で同様のユーザーインターフェースで操作出来るようにすれば、追加申告・履修取り消しをまとめて行うことが可能になり、時間割形式で講義の配置を確認できることから予定の調整も行いやすくなります。1Q・3Qの履修申告の初めに2Q・4Qの履修申告をまとめて行いたいと考える学生の手間も増えません。

また別の意見として、「2Q・4Qには仮登録制度がない」との声も寄せられました。仮登録制度とは授業を予め組み本登録まで保存出来る制度です。仮登録を行えば本登録なくても講義資料などを受け取ることが出来ます。現在の制度では追加申告に仮登録制度がなく、授業予定を組み試行した後に本登録することも、本登録まで講義資料など受け取ることも出来ません。このことは2Q・4Qの履修申告において1Q・3Qと同様の操作が出来ない一つの事例となっています。こちらの問題についても上で述べた「更新」の制度に仮登録制度を追加すれば解決可能です。

4. サービス関連

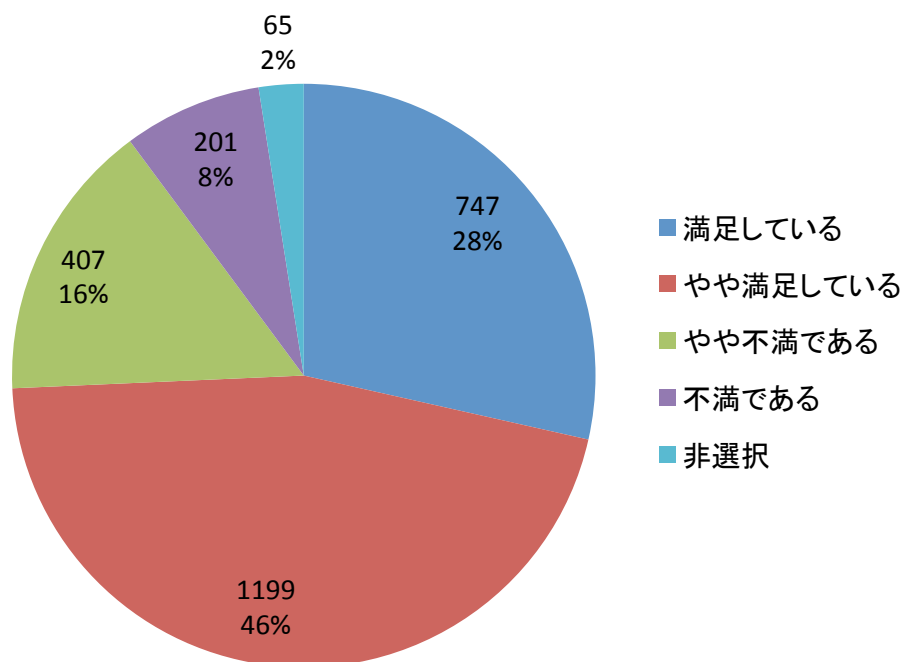


図 4-4.1 履修申告制度の満足度

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 学勢調査 2016 では「更新」システムを提言しましたが、実現しなかった理由を教えてください。

A1. 2Q, 4Q の履修に関して「更新」のシステムですと全ての科目をまとめて操作しなければなりません。現在のシステムではそれぞれの科目に対して変更を決意した時に随時変更を行うことが出来ます。まとめて変更する場合は一度に全ての科目に対して考慮しないとイケないため難しくなることが考えられます。

Q2. 2Q, 4Q の更新に対しても 1Q, 3Q の履修登録の際と同様に「仮登録」システムを採用すれば良いのではないのでしょうか。履修の変更を検討している際に仮登録し、その計画で活動し問題ないと判断した際に「本更新」を行えるようにすれば難しいと思います。

A2. 1Q, 3Q の履修登録でも同じですが、一時保存をしても本登録をしないと反映されません。リマインドを送っているのですが忘れてしまう学生もいます。その点を考慮すれば 2Q, 4Q の更新はシンプルにした方が学生にとっても運用がしやすいと考えています。また一時保存をして本登録が出来なかった学生が現れた際の処理についても難しくなります。

Q3. 2Q・4Q には「仮登録」システムがなく、講義資料を OCW-i から受け取れないという学生がいます。追加申告を考える際に受講している学生と不平等であるのは判断の妨げになると考えられます。受講していない学生が資料を受け取ることに問題点はありますか。

A3. 授業を執る教員方の対応が難しくなることがあると考えられます。

提言

2Q, 4Q の履修変更の際に、追加申告を考えている学生と元々受講している学生に情報の格差が生じている現在のシステムは問題があります。追加申告を考えている学生にも OCW-i から講義資料を配布するために「仮登録」システムを導入し、元々受講している学生と同じ環境で学習出来るようにすることを提言します。また、これが実現すれば追加申告を考えている学生も初回の授業に OCW-i からレポートを提出することが可能になります。

続いて 2Q, 4Q の履修変更について、科目ごとに履修を随時変更する方法では全体を俯瞰しながら履修計画をするという意識が低下してしまいます。全体を俯瞰しながら予め履修計画を試行したり、まとめて履修登録を変更したりすることが出来た方が便利であると考えられます。一時保存をして本登録が出来なかった学生が発生することも考えられますが、1Q, 3Q の履修登録と同様の追加申告・履修取り消しの手続きを導入すれば個別に対処できると考えられます。これらを踏まえて「更新」システムの導入を提言します。

学生の意見

- (学士課程学生から) どのように防災訓練に臨めばいいのかよくわからなかった (同様意見 10 件)。
- 防災訓練後、個人の行動に関してフィードバックが必要ではないか。
- より詳しい災害マニュアルがほしい (同様意見 10 件)。
- 近隣住民の避難も考慮した訓練も行うべき (同様意見 2 件)。
- 系ごとにリスクについて考える機会を設けるべき。

現状分析

地域の消防署から消防車の出勤を依頼して災害救助訓練を行ったり、数年にわたり学生ボランティアグループも実施協力していたりいるなど、本学での一年に一度の防災訓練については改良がみられますが、より洗練された訓練を望むような声が寄せられました。一方で、教職員の防災意識がまだまだ低い、学勢調査 2016 でも指摘を受けた点が改善されていない、参加学生が回答者の約半分と少ないなど未だ問題点も見られます。学士課程学生の参加をより促す一方、学生ボランティアグループや教職員、研究室との密な連携を行いながら、来る災害に備える必要があると考えられます。

これらの現状を踏まえ、安全企画室とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

- Q1. 避難訓練中も学士課程の授業が平然と行われている教室がある、また研究室の学生を誘導するために教員が早く授業を終わらせ、学士課程の学生はどう行動すればいいのか指示がないため避難訓練にうまく参加できないなど、学生から不満の声が上がっています。教員の防災意識の低さが伺われます。学士課程の学生の誘導も含め避難訓練を行うべきと考えますが、何か対策はありますか。
- A1. 事前準備として、キャンパスマネジメント本部総合安全管理部門主催の防災訓練実施ワーキンググループを開いています。防災訓練当日に授業を担当する教職員の方々には、受講している学生の誘導を行うよう、例年前もって協力を依頼しています。学生に対しても事前に防災訓練の日時を大学のホームページや東工大メールニュース、学内のポスターや電子掲示板等で連絡しているので、先生方の指示を仰ぐだけでなく、積極的に参加、行動していただきたいと考えています。
- Q2. 入学時に「大地震対応マニュアル」「健康・安全手帳」「緊急連絡・大地震時 安否確認票」が配られるとのことですが、目を通していない学生がほとんどというのが現実の様です。そのような中で避難経路を記載してある詳しい災害マニュアルを望む声が見受けられます。このような詳細な災害マニュアルは存在するのでしょうか？
- A2. 入学時に配布している資料に加え、有事の際に参考にしていただくための避難経路図を各教室に提示していますが、あまり学生の目についていないのが現状と思われます。各避難場所は主として各建物等の自衛防災地区隊で検討し防災訓練実施ワーキングで決定、周知されていますが、どの避難場所に避難していただいても構いません。有事の際はあらかじめ指定された避難経路が使えない可能性もあるため、どの避難場所にどの経路を通るかは、避難する人自身が臨機応変に対応する部分もあると考えています。
- 地震対応マニュアルの詳細な冊子は東工大ホームページの教職員向けページ (学内 LAN からなら学生もアクセス可能) で公開されていますが、学生用に特化した内容にはなっていません。まずは簡易版のマニュアルに積極的に目を通して頂き、その後、講義室等の避難経路の図面確認や、研究室内でどのように避難するか等を話し合うなどして頂けると幸いです。
- Q3. 避難経路はどのように決められているのでしょうか？
- A3. 講義室からの避難経路については、教務課職員が実際に構内を歩き、出口に人がたまりすぎないように考え、より適切と思われる避難経路を検討したものです。各建物・避難場所への経路については、各学院や建物等の自衛防災地区隊で検討頂いています。
- Q4. 避難経路が危険な場所を通っている、研究室ごとのリスク評価も公開してほしいという声が見受けられます。避難経路を決定する際、研究室との打ち合わせはあるのでしょうか？

4. サービス関連

- A4. 各建物内の避難、防災に関しては各建物等の自衛防災隊を中心に対策を講じてもらっていますが、研究室ごとの打ち合わせを行っているところについて安全企画室で詳細は把握していません。実験内容や薬品、器具の危険性については、実験する方々が一番わかっていると考えています。各研究室でリスク管理をお願いすると共に、指導教員ともよく相談し、各自が自分の実験、行動に責任を持ってほしいと考えています。
- Q5. 近隣住民の避難や帰宅困難になった場合の体育館の間仕切り設置なども考慮した訓練を望む声が見受けられます。このような避難後の災害マニュアルは存在するのでしょうか？
- A5. 東日本大震災の際は避難されてきた地域住民の方に使用可能な会議室を避難所として開放する、備蓄品を提供するなど行った経験があり、近隣住民の避難も考慮した対策を準備しています。
- Q6. 防災訓練に対する個人用のフィードバックシートの作成を望む声が見られます。今後フィードバックシートを作成、配布することはできますでしょうか。
- A6. 盛り込む内容を含め、今後の防災訓練から検討したいと思います。

提言

災害に備え、綿密な対策を考えることは重要でありながら、災害マニュアルに記載されている避難経路が使用できない場合や、マニュアルに忠実に従えば逆に危険である場合も有事の際は考えられます。学生側から詳細な災害マニュアルを求める声がある一方、大学側からは避難経路や有事の際の行動指針を一律に決めつけることは難しいという、認識の違いが見受けられました。

いざ災害が起こったときは、自分の身をまず守るため、そして周りへの影響も考慮し被害を最小限に抑えるため学生自身の臨機応変な対応が重要です。各自が改めて緊急時の行動を見直す重要な機会として、防災訓練に臨む学生を増やすとともに、各人が自主的な行動をとれるよう、大学側、そして学生側双方からの働きかけが重要と考えられます。

各学生は自身が使用する実験器具や所属する研究室全体のリスク管理について責任を持ちつつ、自身の身を守るために避難場所・避難経路について認識しておくことが必要です。学内で掲示されている情報には注意してみることを心掛け、互いに情報共有することが大切です。そして防災訓練の時だけでなく、日ごろから安全対策について考える必要があります。

また研究室に所属していない学士課程学生の、防災訓練に参加しづらいという現状も大きな問題です。大学側には以下の項目について提言します。

- ・ 防災訓練当日授業を受け持つ教員には、受講している学士課程学生の引率を優先する。各研究室では教員が不在の時を想定し、自主的に避難できるよう引率者をあらかじめ、決めておくことを義務付ける。
- ・ 日ごろから各自の安全管理を喚起する情報を流す。
- ・ 防災訓練後に各自が行動を振り返ることができるフィードバックシートを作成・配布する。
- ・ 現在連携をとっている地域の消防署と協力し、学生に有事の際の行動について考える機会を設ける。特に学士課程学生にとって避難訓練と合わせた自分の身の安全を考える機会を提供することは重要と考えます。